

## 第31回下野市行政改革推進委員会 会議録

日 時 平成26年1月16日(木) 午後2時00分～4時00分  
場 所 下野市役所国分寺庁舎 304会議室  
出席委員 杉原弘修会長、飯島陽子委員、関口博之委員、吉田良一委員、飯野洋委員  
水上美紀委員、長光博委員、大木徳委員、園部小由利委員、中林佳子委員  
庁 内 広瀬市長、板橋副市長、落合総合政策部長、篠崎総務部長、蓬田健康福祉  
部長、落合産業振興部長、大橋建設水道部長、上野会計管理者、鶴見教育  
次長、落合生活安全課長、黒川議事課長  
事務局 小口総合政策課長、小谷野主幹兼課長補佐、山内主幹、坂巻副主幹  
傍聴者 なし

### ○次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
  - (1) 会議録署名人の指名
  - (2) 第30回下野市行政改革推進委員会会議録の確認
  - (3) 平成25年度下野市行政評価市民評価報告書(案)について
- 4 平成25年度下野市行政評価市民評価報告書の提出
- 5 市長等との意見交換
- 6 その他
- 7 閉 会

### ○あいさつ

(杉原会長) あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。本日は報告書の提出を行いますので、宜しくお願いします。

### ○議事

#### (1) 会議録署名人の指名

(杉原会長) 今回の会議録署名委員は、中林委員と飯島委員にお願いします。

#### (2) 第30回下野市行政改革推進委員会会議録の確認

(杉原会長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) 本日配布した資料は第30回の会議録について事前に内容等を確認いただき、修正の報告があった箇所を修正したものです。(修正箇所の説明)

(杉原会長) 改めて委員の皆様から訂正等ありますか。無いようでしたらこれで確定とさせていただきますがよろしいでしょうか。

(委員) <異議なし>

### (3) 平成25年度下野市行政評価市民評価報告書(案)について

(杉原会長) 前回の委員会で協議決定した内容を基に報告書(案)を作成し、委員の皆様には事前にご確認いただいたかと思えます。訂正の報告等について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 本日配布の報告書(案)をご覧ください。内容等について事前に確認をしていただきましたが、訂正の報告はありませんでした。訂正等のご意見はありませんでしたが、水上委員から事務事業別の評価結果に記載される「反対意見」の記載方法について、委員会の市民評価に対する「反対意見」であることを明確にするための説明をつけたほうが良いのではないかとのご提案がありました。事務局としては、反対意見一つひとつに説明が必要となる可能性もあり、その場合かえって報告書としては見にくくなってしまうと考えています。水上委員からのご意見と報告書(案)の内容等について、再度協議していただければと思います。

(杉原会長) 水上委員から、ご提案の趣旨を説明していただきたいと思えます。

(水上委員) 市の内部評価に対して、市民評価で「市評価が高すぎるため妥当とは思われぬ、やや妥当とは思われぬ」とした事務事業については、「反対意見」は、市の内部評価に対して「妥当である」との個別意見が記載されることとなります。しかし、「反対意見」とだけ記載されていると、一般市民の方が報告書を読んだ際に、記載された意見については、事業そのものや市の内部評価に対しての「反対意見」であるとの誤解を与えかねません。委員会において決定した市民評価に対しての「反対意見」であることを明確にするために、括弧書き等で「市の内部評価は妥当であるとした意見」等の説明をつけた方が、より分かり易い報告書になり、委員の個別意見も生きてくると考えます。

(杉原会長) 水上委員のご意見は十分理解できます。市民の方にもできる限り混乱の生じない記述の仕方は必要だと思えます。しかし、委員会の役割は第一義的には市長に答申するということになっています。今の報告書の記載方法では市民の中で混乱が生じてしまうという事であれば、行政において丁寧に説明する必要がある、それでも不十分であれば、制度の見直しも含めて考えていく必要があると思えます。委員会で行っている市民評価は事業仕分け的なものではなく、市の内部評価に対しての評価というやや分かりにくい仕組みになっていると言え、根本的な問題にもなってきます。水上委員のご意見を今回の報告書に反映させるとなると、再度事業ごとに反対意見の表記の仕方等について協議が必要となってしまうため、委員会としては、来年度以降の行政評価の運用改善に向けた個別意見に記載させていただき、今後の検討課題とさせていただければと思います。そのような取り扱いでよろしいでしょうか。

(水上委員) それで結構です。今後、各委員の個別意見一つひとつを分かり易い方法で記載していくことが必要と思えます。

(杉原会長) 大変貴重なご意見だと思います。他の委員の皆様からご意見ありますか。無いようですので、来年度以降の行政評価の運用改善に向けた個別意見に記載することにします。

続いて、報告書（案）の内容について事前に訂正等の申し出はなかったとのことですが、改めてご意見等ありますか。無いようでしたら、報告書（案）を確定させていただきますがよろしいでしょうか。

- (委員) <異議なし>
- (杉原会長) 報告書提出まで時間がありますので、全体を通しての意見交換を行いたいと思います。
- (水上委員) ヒアリング時の参考資料として、会計決算報告書がなかったと思います。昨年度はグリムの里いしばしや道の駅しもつけの会計決算報告がありました。ヒアリング資料には決算額の記載がありましたが、詳細な決算報告書等があればいいかなと思いました。
- (杉原会長) 行政の決算報告は膨大な量になると思います。要旨みたいなものをお考えでしょうか。事務局としてはどうですか。
- (総合政策部長) グリムの里いしばしや道の駅しもつけについては、一般会計の決算とは別に決算報告を行うことになっています。昨年度の市民評価では、その2つの団体に関する事務事業が市民評価対象事業となったため、参考資料として決算報告書の提出があったと思われませんが、今年度はそのような事業は対象になりませんでした。今年度の資料としては、ヒアリング資料の中で記載のある決算額をご覧いただきたいと思います。市民評価の対象事業によっては、昨年度同様参考資料としてお配りいたします。
- (水上委員) 分かりました。ある場合は提出していただくということで結構です。
- (長委員) 私は商工会からの代表として委員となっていますが、市と商工会は関係が深いため、市が行う事業に対してなかなか発言出来ないのが現状です。
- (大木委員) 事業のヒアリングについてですが、説明を聞いても消化不良となってしまう事業もあります。状況によっては、ヒアリングの延長など検討してもらえればと思います。中身の濃い議論になると思います。
- (園部委員) 会議録が、簡素にまとめられ過ぎており、自分の言いたいことが伝わっていないと思い訂正の申し出が多くなってしまいました。会議録は、どのようにまとめているのでしょうか。
- (事務局) 事務局で録音を聴きながらまとめています。発言内容が伝わるよう考慮しながら作成し、事務局内でチェックを行って、委員の皆様へ送付しております。
- (園部委員) 何度か疑問に思ったので確認させていただきました。
- (中林委員) ヒアリングの際に、質問に対して「まだ途中のため決まっていません。」  
「これから検討します。」という事業が多かったと思います。もしそのような進捗状況の事業を委員会として選択しようとした際には、事務局から「ヒアリングで詳細を説明するまで事業が進んでいないため市民評価対象事業からは除いた方がいいのではないか」と言っていた方が良かったと思います。委員会としては、初めから10事業を選択するのではなく多めに選択し、その中から事務局に意見を求めながら10事業を選択するということが必要ではないかと思います。
- (総合政策部長) 来年度の10事業選択の際には、事務局において事業の進捗状況の説明等を行っていきたいと思います。また、事業によっては市民の声を

反映した事業計画に基づき事業が進められ、完了に近づいているものもあります。そういった事業についても、説明させていただきたいと思います。

(杉原会長) 進行中の度合いも重要になってくるかと思しますので、選択から除外するという事は慎重に検討すべきと考えます。

(総合政策課長) 市の行政評価は事前評価となっているため、基本的には全ての事業がこれから行う事業となります。当然継続的な事業も含まれますが、数年間かけて実施する事業は、市民評価対象として選択された時期によって説明の度合いも変わってきますので、今後事務局としても事業の状況説明は行っていきたいと考えています。

(飯島委員) 来年度委員改選となりますが、10事業の選択は新しい委員が行うこととなりますか。今年度は10事業の選択を行った委員が引き続きヒアリングも行ったため、活発な議論が出来たと思います。事業選択に当たって、委員会で議論しテーマを決め、そのテーマに沿った10事業を選択していくということは、大変実りのある事業選択になると思います。また、議論していくことが重要だと思いますので、ヒアリングの際には、質疑応答や委員間での議論に多くの時間が必要だと思います。しかし、ヒアリングの延長などは、委員によっては負担となる場合もあると思いますので、今の時間でのよりよい時間配分を考えていただきたいと思います。

(事務局) 委員の任期が11月になっているため、改選の年には10事業の選択を行う委員とヒアリングを行う委員が違ってしまっています。委員の任期が2年間となっているため、どのように対応できるか検討させていただきます。

(関口委員) 今年度の報告書には、市の内部評価に対して「市の評価が高すぎるため妥当とは思われない、やや妥当とは思われない」と評価した事業が何件かありました。市の内部評価はどのように行われているのでしょうか。

(総合政策課長) 内部評価は庁内の行政評価委員会で決定し、その後市長が最終判断を行います。委員会には市長決定後の評価をお示ししています。

(関口委員) 市の内部評価に対して、委員会で「市の評価が高すぎるため妥当とは思われない、やや妥当とは思われない」とする結果が出てくるということは、市の内部評価が市民目線と違っていると考えられます。市は計画に基づき立派なものを造ろうと考えるかもしれませんが、市民目線では贅沢過ぎないかと考えます。また、市民においても地元に来る施設は賛成だが、離れた所に来る施設は反対が多くなると思います。この委員会は事業仕分けではありませんが、議論の中では事業仕分け的な意見が出てしまいます。市の内部評価に対して評価を行うという、市民評価の難しいところだと思います。

(総合政策課長) 市の内部評価と違う市民評価となることは、職員の説明不足もあるかと思えます。情報公開・市民協働の時代においては、市民との共通理解を深めるためにも行政職員の説明能力も必要となると思います。

(総合政策部長) 今の行政は事業を行うに当たって検討委員会等を通して多くの市民から意見をいただきながら進めています。行政だけで事業を進める時代

ではなく、市民との協働の中で事業が進められていることをご理解いただければと思います。

(関口委員) 一般市民では事業の具体的な内容が分からず、委員会の委員になって一つひとつの事業について議論していくことになり、その時になってはじめていろいろな意見が出てきます。市民評価が厳しくなっている一つの原因だと思います。また、内部の部署間の連絡が無いように感じます。新たなコミュニティ施設を造るにしても、コミュニティ担当部署と連携がされていないと思いました。いろいろなことに言えることですが、新しいものを造るとそちらに人が流れ、既存のものが衰退していくと感じます。市はそのことも念頭に事業を進めていただきたいと思います。

(吉田委員) 私自身専門外で分からないことが多かったのですが、一つでも多くの参考資料があれば事業を吟味でき、より議論が深められたと思います。来年度以降の行政評価の運用改善に向けた個別意見に記載させていただきましたが、資料の充実を図っていただければと思います。また、自分自身の個人的な感覚で評価を下してしまったと感ずることがあり、多少心残りのところがありました。

(飯野委員) 地元税理士会の会長から依頼を受けて委員となりましたが、こんなに大変だとは思いませんでした。行政においてはコストパフォーマンスだけでは計れない事業もあり、委員として事業の中身を理解するためにかかなりの時間が割かれました。様々な視点から検討が必要になるなど、自分としては勉強にもなりましたが大変でした。

(杉原会長) いろいろなご意見が聞けて有意義でした。それでは議事を終了します。

[休憩]

## ○平成25年度下野市行政評価市民評価報告書提出

(総合政策課長) 杉原会長から、市長に報告書の提出をお願いします。

(杉原会長) この度、下野市行政改革推進委員会において、平成25年度下野市行政評価市民評価報告書を作成しましたので提出いたします。報告書は、行政評価が市民目線で評価がされているか、甘めの評価になっていないかを中心に委員が熱心に審議した結果です。ここに報告書を提出しますので宜しくをお願いします。

(広瀬市長) ありがとうございました。

## ○市長等との意見交換

(総合政策課長) 市長等との意見交換となりますが、はじめに広瀬市長よりごあいさつを申し上げます。

(広瀬市長) 委員の皆様方には10月の市民評価対象事業の選定に始まり、各事業のヒアリング、報告書の取りまとめと、大変お忙しい中委員会を進めていただいたことに厚くお礼申し上げます。今回10事業の市民評価を行っていただきましたが、3つの事業が市の評価が高すぎるとされました。委員の皆様のご意見を拝見しますと、内部評価の際にも意見

として出ていた内容だなと感じ、ヒアリングの際に各部署の説明がうまくされていないかと思いました。また、説明によっては市民の方にはこのように感じられるのか、こういったところを注意しながら事業を進めていかなければならないなという思いを改めて持った次第です。様々な部分で説明が足りないところがあったかと思います。現在、自治基本条例の制定に取り組んでいますが、市民と行政、議会が協働の中で事業を進めていくためには、市民評価の報告書は大変重要で、いろいろな角度からのご意見をいただきながら施策を展開していく必要があると考えています。報告書をしっかりと次に生かせるように事業を進めていきたいと思っています。

(総合政策課長) 意見交換に入ります。進行は杉原会長をお願いします。

(杉原会長) 委員の皆様感想やご意見を述べていただき、市長、副市長、部長の皆様からも忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。挙手をお願いします。

(大木委員) 市民評価の対象事業として観光事業を取り上げたところ、道の駅もつけにより入込客数が大幅に増加したとの説明がありました。道の駅によって新4号国道側は入込客数が増えたかもしれませんが、4号国道側はどうなっているのかなと思いました。市としてはどのように考えているのでしょうか。

(広瀬市長) 道の駅もつけには、年間250万人の方が訪れています。観光というよりは現実的な情報として「下野市の野菜はおいしい」という口コミで訪れていただいているようです。道の駅周辺には三王山があり、ふれあい館があります。ふれあい館が震災の被害を受けて修繕する際、投資に見合う利用客の増加が必要だと判断し、三王山地区公園整備に着手しました。道の駅の利用客のうち1%が三王山地区を訪れたとしても2万5千人になります。最終的には、道の駅にふれあい館や三王山地区公園の管理を委託し、道の駅の収益も含めて三王山地区の維持管理を行えないかと検討しているところです。また、将来的には4号国道側にある天平の丘公園等にも同じようなスタイルがとれないかと考えていて、道の駅の集客力・収益を、市民全体に還元していくような仕組みが必要と考えています。

天平の丘公園では国分寺の基壇の整備が完了しました。ここまできれいに基壇整備が出来た国分寺跡は全国でも少ないと思います。市民のみならず近隣の多くの方に訪れていただきたいと思っています。道の駅は知っているという方々に天平の丘などにも多く訪れていただくため、道の駅を起点にしながら積極的に情報を市外に発信していきたいと考えています。

JRと連携した事業によって市外へのアピールを行うことはもちろん、先日、JR東日本に「休日おでかけパス」の延長を要望したところです。

(水上委員) 私は自治会長連絡協議会理事として委員会に参加しています。今回、市民評価の対象事業に自治会長等事務報償事業があり、報告書のその他の個別意見の中に「市民と市の協働・参画の実を挙げるためには、自治会活動に不可欠な行政の事業については、自治会長としてパブリ

ックコメントで意見を提出させることを義務付けるなど、ある程度市の関与が必要ではないか」との意見がありました。義務付けまではいきませんが、任意で提出していくことの意識付けをしていくことは大切だと思い、今後様々な場面で自治会長の皆様に説明し前向きに考えていただこうと思いました。市としては、どのような関与が考えられますか。

(広瀬市長) 自治会長の皆様には身近な意見を行政に届けていただき、行政も自治会長を通して情報の発信を行っており、言い換えれば言葉のキャッチボールをさせていただいており、同じ目線での協働が大切だと考えています。自治会の中で委員自らが、他の自治会長に説明していただくということはあるありがたいことだと思っています。

(水上委員) 自治会長が声にならないような声を行政に伝えるパイプ役を務め、パブリックコメント等で意見を提出していくことで、市民意識も高まっていくと思いました。自治会長に少しづつでも広めていけたらと考えています。

(広瀬市長) 自治会長をはじめ民生・児童委員とお話しする機会がたくさんあって現場の身近な話が大切だと感じています。職員にも、職員自身が感度のいい受信・発信装置になるように伝えています。自治会長はじめ皆さんと一緒に仕事をしていければと思っています。パブリックコメントについても多くの意見が出るよう広報していきたいと思えます。

(水上委員) 私自身もより良い暮らしづくりなどを目標にして、前向きに協力していけたらと思えます。

(関口委員) 「市の評価が高すぎるため妥当とは思われない、やや妥当とは思われない」と評価した事業が3件ありましたが、説明が不十分だったかなと思えます。事業ありきの説明ではなく、何のために必要であるかに力点を置いて説明していただければ、評価意見もかなり変わってきたと思えます。また、事業に要する費用については十分考慮し、できるだけ安く進めていただければと思えます。

(飯島委員) 健康づくりトレーニング事業のヒアリングの際に、委託している健康運動指導士等に市の職員を配置できないかという議論がありました。職員については、定期的な異動が必要なことも分かりますが、その方の適正も考慮した専門性を持った職員の配置も必要だと感じます。健康づくりトレーニング事業でいえば、専門職員を別枠で採用したらどうかと思いました。民間委託も一つ方法だと思えますが、市として専門職員を育てていくことも必要なことだと思えます。また、委員会に4年間参加して合併特例債を活用した事業が多いと思えました。合併特例債のメリットも理解できますが、債務に変わりはありません。今後、税収も減少すると考えられる中で、合併特例債についてどのように考えているかお聞きしたいと思います。

(広瀬市長) 人事に関しては、専門性を持った職員は必要だと思えますが、その職員の育成も考えると、下野市の規模の自治体として専門職を固定化できるのか、またどの位のエリア・規模で専門職員が必要かなど、検討課題は多いと考えています。技師、保健師などはローテーションを組んで採用しております。健康づくりトレーニング事業でいえば、新た

な専門職ということではなく、今いる保健師等でサポートができないかなという思いもありますので、研究していきたいと思っています。人事評価制度の中で職員を育成し、適材適所の人員配置を検討しながら進めていきたいと思っています。

また、合併特例債についてですが、市及び市民にとって大変有利なものであると考えています。市では長期財政健全化計画を策定しております。起債可能限度額を最大限活用しても、実質公債費比率や将来負担率等の財政健全化目標については、いずれも目標値以内で推移し、将来にわたり健全財政の維持は図れるとしていますのでご理解いただきたいと思います。合併特例債ありきではなく、市にとって必要な事業、合併特例債がなくてもやらなければならない事業に、合併特例債を活用していることをご理解いただきたいと思います。

(飯島委員)

返済計画をしっかりとさせていただきますようお願いいたします。

(杉原会長)

他にご意見も無いようですので、最後にこの委員会と意見交換の意義について感想を述べさせていただきたいと思います。参加されている委員の方々は、一般市民の方と比べると大きく変わられたと思います。学習され、議論され、熟慮され、振り返り反省され、最終的には評価決定を行うという重要なプロセスの中で、自分の意見を述べられました。私自身一市民として委員会に参加し、委員である下野市民の皆様が日々成熟・成長されていく過程を見てきました。大げさに言えば歴史的な証人という思いでいます。本日の意見交換において、市長からいろいろな意見をいただき、また委員も意見を述べるということが、さらに学習・議論・熟慮・反省・結論に結び付いていくものと思います。意見交換に時間をいただきありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

(広瀬市長)

杉原会長のお話しにもありましたが、こちらから説明する職員も日々成長していったのではないかと思います。しかし、まだまだ説明が上手ではなかったのではないかとともに思います。三王山地区公園整備においては、委員会方式で委員の皆様にもいろいろな意見をいただきながら進めてきました。今回の報告書の中では「高齢者の目線に立った整備も必要」とのご意見がありましたが、高齢者の方の要望も取り入れ、グラウンドゴルフなどができる整備を行う予定です。説明が足りなかったのではないかなという思いがします。

合併特例債については、やらなければならない事業に対して、一般財源ではなく合併特例債が活用できないかと工夫しながら進めています。合併特例債が活用できる期間が短いため、集中してしまっていますがご理解いただければと思います。まだまだ説明や広報が足りないと感じます。一般の方々にどのように情報を届けるか、いろいろな手段を講じていきたいと思っています。委員会の市民評価報告書は、P D C A ( P l a n ・ D o ・ C h e c k ・ A c t i o n ) サイクルのチェックの部分であり、これから市がアクションを起こす段階だと考えます。本日はありがとうございました。

(杉原会長)

ありがとうございました。それでは意見交換を終了させていただきます

す。

## ○その他

(事務局)

本日の会議録については、調製が済み次第郵送いたします。訂正箇所等について事務局で取りまとめ、会長及び署名委員にご確認いただきて確定させていただきます。次回の委員会は、行政改革大綱実施計画の進捗状況報告を予定しております。日時等については、決定次第ご案内する予定ですので宜しく願いいたします。

以上